

ヒューセーノブ・ハビル（アゼルバイジャン）



私は、アゼルバイジャンのヒューセーノブ・ハビルです。アジア防災センター（ADRC VR FY2023）の客員研究員です。私は、アゼルバイジャン共和国の非常事態省アカデミーを卒業し、2019年に「非常事態・生命安全工学」の学士号を取得しました。その後、2021年に同アカデミーを卒業し、「緊急事態および生命安全工学」の「緊急事態管理」の専門分野で修士号を取得しました。また、アゼルバイジャン国立石油産業大学の博士課程に在籍し、「緊急安全（分野別）」を専攻しています。現在は、クラ川流域のエブラフ・ネフチャラ地帯で起こりうる洪水災害の評価と適切な対策」をテーマとして、学位論文に取り組んでいます。

2021年からは、非常事態省のアカデミーで教師として働いています。このアカデミーでは、士官候補生（学生）に「民間防衛」と「大量破壊兵器に対する防衛」の科目を教えています。また、アカデミーでは、6本の学術論文を執筆し、様々な科学雑誌に発表しています。さらに、科学研究に関連する国際会議やセミナー、関連するイベントにも積極的に参加しています。さらに、VRとして日本滞在中においては、国際復興フォーラム2024に参加する素晴らしい機会を頂きました。

今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加し、日本における災害リスク管理の高度な技術を学びたいと考えています。アゼルバイジャンは、長い歴史において何度も自然災害に直面し、インフラに大きな被害が生じ、住民にも影響を与えてきました。そのため、このプログラムの後、アゼルバイジャンにおいて災害管理システムの新しい手法の検討について、士官候補生を指導することができると思います。さらに、防災の分野において、私自身の知見や経験を成長させるのに役立つと考えています。且つ、現場の担当官として、より自信を持って災害管理に取り組むことができると思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった日本政府とADRCに感謝します。また、日本滞在中に熱心にサポートしてくださったADRCのスタッフの皆さんに心から感謝します。